

庄内川等水域の一部と豊川等水域の水域類型の見直し案

1 Aブロックの環境基準達成状況と見直し案

(1) 環境基準の達成状況と1ランク上位類型の達成状況

(BOD:75%値)

水域区分	水域	現行		環境基準点	類型達成状況											利用目的	
		類型	達成期間		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27			
庄内川等水域の一部	日光川 (全域)	E	ハ	北今橋	上位類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	農業用水
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日光大橋	上位類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
			現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	新川下流 (新橋より下流)	E	ハ	萱津橋	上位類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	農業用水	
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
五条川下流 (待合橋より下流)	E	イ	待合橋	上位類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	農業用水		
				現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
豊川等水域	豊川上流 (宇連川合流点より上流)	A A	イ	長篠橋	上位類型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	水道 水産 農業用水	
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	豊川中流 (宇連川合流点から豊橋市下条上水道取水地点まで)	A	イ	江島橋	上位類型	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	水道 水産 工業用水 農業用水	
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	豊川下流 (下条上水道取水地点より下流)	B	イ	吉田大橋	上位類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	水産	
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	宇連川 (全域)	A A	イ	鳳来橋	上位類型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	水道 水産 工業用水 農業用水	
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	豊川放水路 (全域)	C	イ	小坂井大橋	上位類型	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	環境保全	
					現行類型	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	音羽川 (全域)	C	イ	剣橋	上位類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	農業用水	
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	佐奈川 (全域)	D	イ	柳橋	上位類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	環境保全	
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	汐川 (全域)	E	ハ	船倉橋	上位類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	農業用水	
					現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
梅田川 (全域)	C	ハ	御厩橋	上位類型	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	農業用水		
				現行類型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	

備考：環境基準達成状況の上位類型の各年度の欄中、現行類型より1ランク上位の類型と比較して達成している場合は「○」を、達成していない場合は「×」としている。

(2) 見直し案

< 現行類型・達成期間 >

水 域	類型	達成 期間
日光川 (全域)	E	ハ
新川下流 (新橋より下流)	E	ハ
五条川下流 (待合橋より下流)	E	イ
豊川上流 (宇連川合流点より上流)	AA	イ
豊川中流 (宇連川合流点から豊橋市 下条上水道取水地点まで)	A	イ
豊川下流 (下条上水道取水地点より 下流)	B	イ
宇連川 (全域)	AA	イ
豊川放水路 (全域)	C	イ
音羽川 (全域)	C	イ
佐奈川 (全域)	D	イ
汐川 (全域)	E	ハ
梅田川 (全域)	C	ハ



< 見直し案類型・達成期間 >

水 域	類型	達成 期間
日光川 (全域)	D	イ
新川下流 (新橋より下流)	D	イ
五条川下流 (待合橋より下流)	D	イ
豊川上流 (宇連川合流点より上流)		
豊川中流 (宇連川合流点から豊橋市 下条上水道取水地点まで)		
豊川下流 (下条上水道取水地点より 下流)	A	イ
宇連川 (全域)		
豊川放水路 (全域)	B	イ
音羽川 (全域)	B	イ
佐奈川 (全域)	C	イ
汐川 (全域)	D	イ
梅田川 (全域)	C	イ

(注) 斜線水域は見直し対象外水域を示す。

(引き続き現行類型・達成期間)

2 Aブロック水域別検討

2.1 日光川水域

(1) 概況

日光川は、その源を江南市前飛保町の北部に発し、伊勢湾（名古屋港）に注ぐ河川延長約 41km、流域面積約 296km²の二級河川である。

昭和 46 年に E 類型に指定された。

現行類型等	環境基準点
E・ハ	北今橋 日光大橋

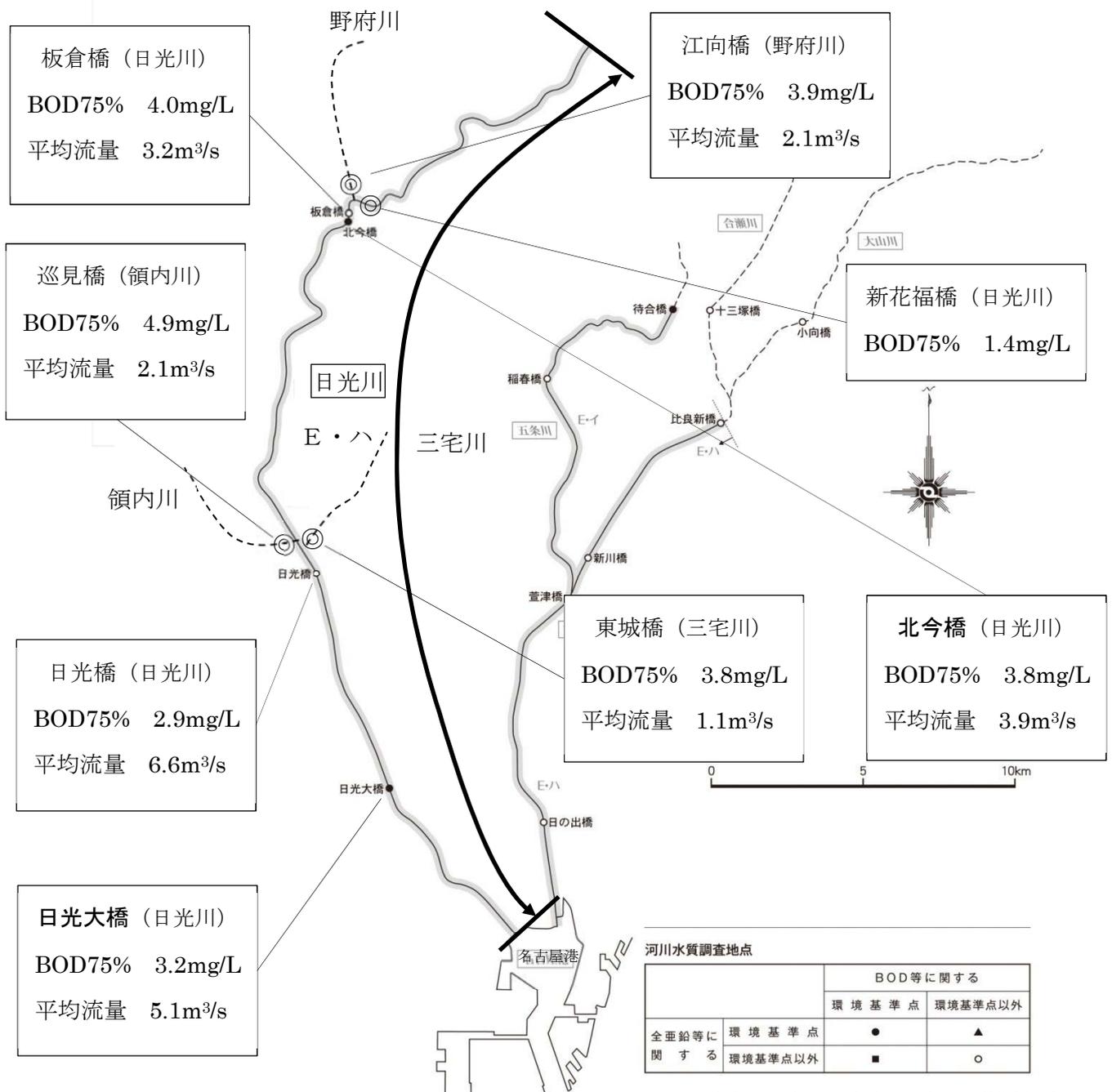


図1 日光川流況図

※ 図中の値は平成 27 年度観測値を示す。

◎は平成 27 年度追加調査地点を示す。

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（北今橋、日光大橋）において過去10年間全て現行のE類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるD類型の基準値を過去10年間連続して満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去10年間全て現行のE類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるD類型の基準値を過去10年間全て満足している。

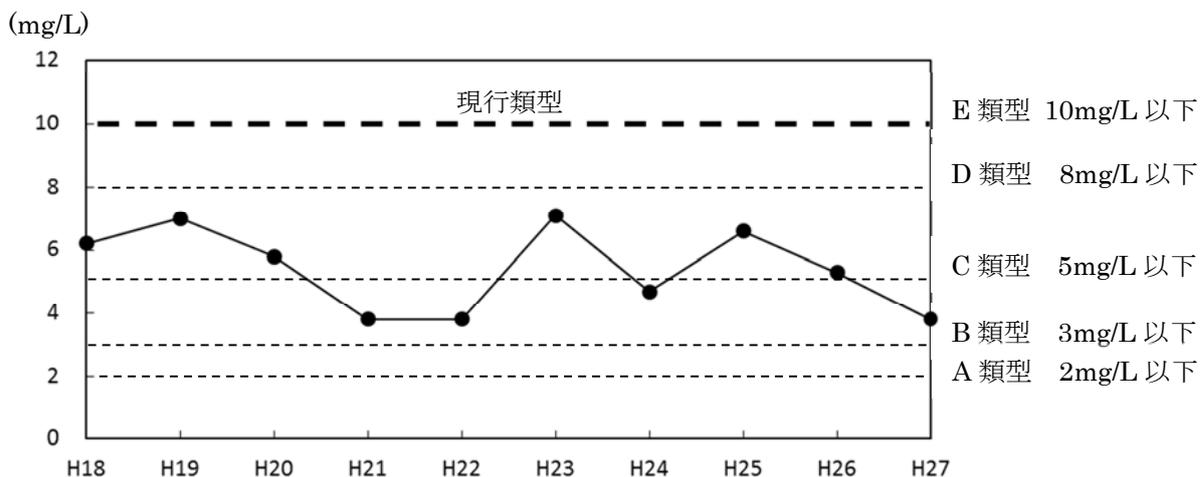


図2 環境基準点（北今橋）におけるBOD(75%値)の状況

表1 環境基準点（北今橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	6.2	7.0	5.8	3.8	3.8	7.1	4.7	6.6	5.3	3.8
BOD	4.5	5.9	4.3	3.9	4.0	5.6	4.0	5.5	4.3	6.3
pH	6.9	6.9	6.8	6.7	6.8	6.9	6.9	7.0	7.1	7.0
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
SS	7	6	5	6	5	8	6	11	8	8
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DO	5.5	5.5	6.1	6.0	6.1	5.8	5.9	5.9	6.2	5.8
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を示す。

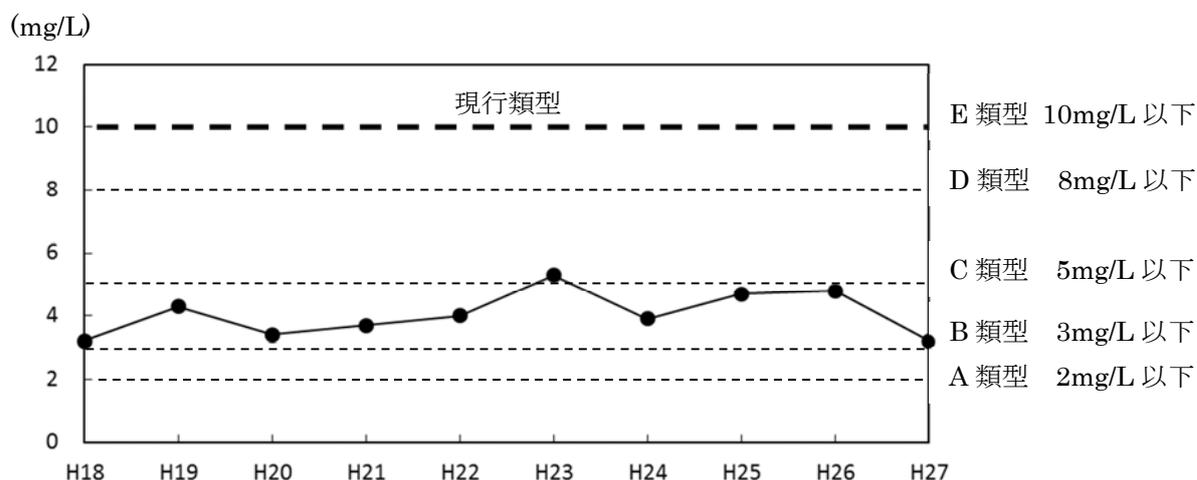


図3 環境基準点（日光大橋）におけるBOD(75%値)の状況

表2 環境基準点（日光大橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	3.2	4.3	3.4	3.7	4.0	5.3	3.9	4.7	4.8	3.2
BOD	3.6	3.6	3.4	3.5	4.2	4.1	3.6	3.7	4.4	2.9
pH	7.0	6.9	7.0	7.3	7.2	7.2	7.4	7.1	7.2	7.2
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
SS	8	7	8	10	11	11	11	8	12	8
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DO	6.3	6.8	7.0	5.7	8.4	7.6	6.7	7.7	7.9	7.6
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測（5年後、10年後）

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去5ヶ年平均		平成31年度	平成36年度
北今橋	H22～H26	5.5mg/L	4.9mg/L	4.2mg/L
日光大橋	H22～H26	4.5mg/L	3.7mg/L	2.9mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるD類型の基準値を満足している。また、水質汚濁防止法に基づく総量規制（以下「総量規制」という。）による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してD類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のE類型からD類型へ引き上げ、達成期間を「直ちに達成」とする。

現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
E	ハ	D	イ

2. 2 新川下流水域

(1) 概況

新川は、名古屋市北部にある庄内川洗堰を上流端として、伊勢湾（名古屋港）に注ぐ河川延長約 24km、流域面積約 245km² の一級河川である。

昭和 46 年に E 類型に指定された。

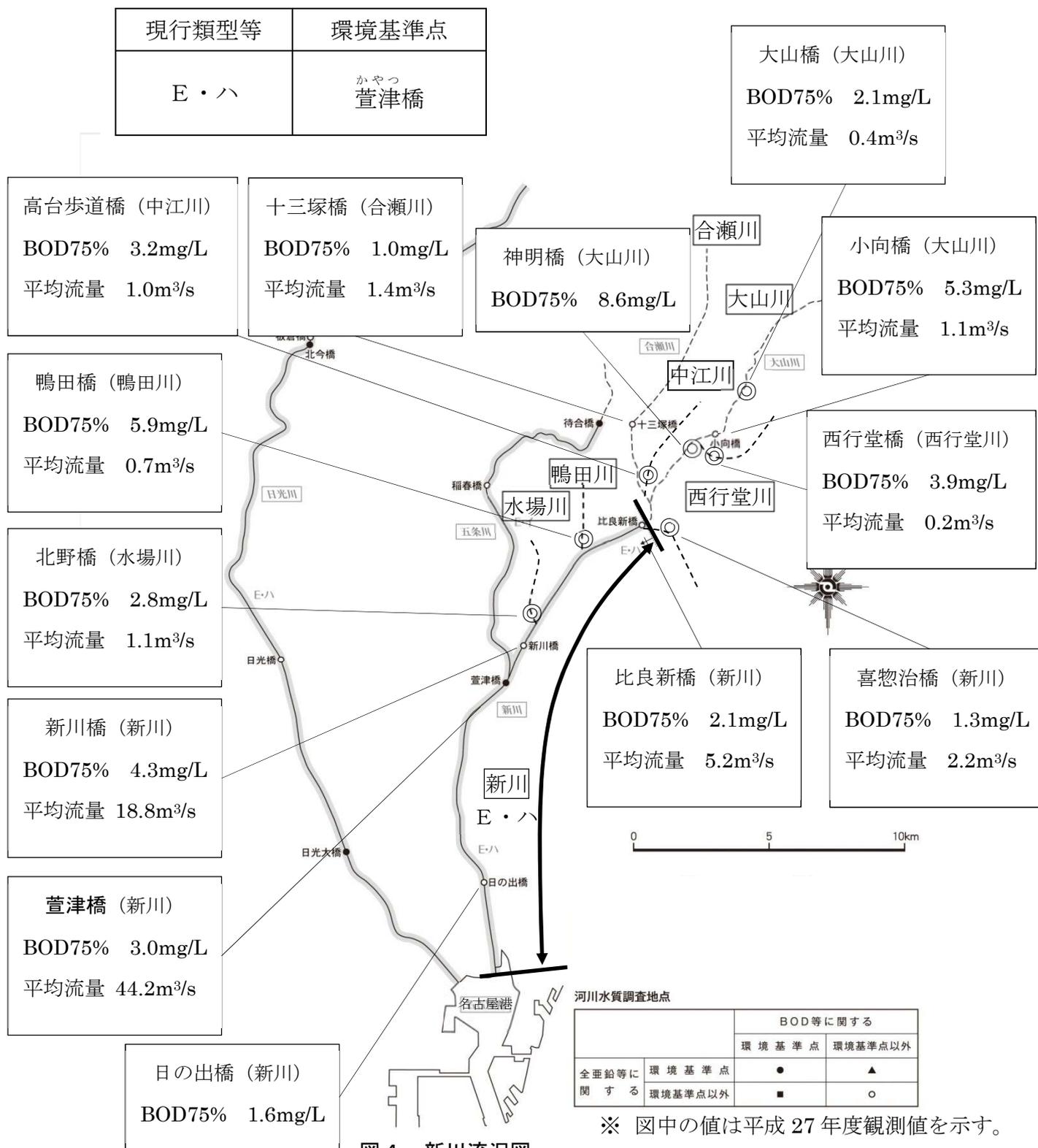


図 4 新川流況図

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（萱津橋）において過去 10 年間全て現行のE類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるD類型の基準値を 10 年連続して満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質量(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去 10 年間全て現行のE類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるD類型の基準値を過去 10 年間全て満足している。

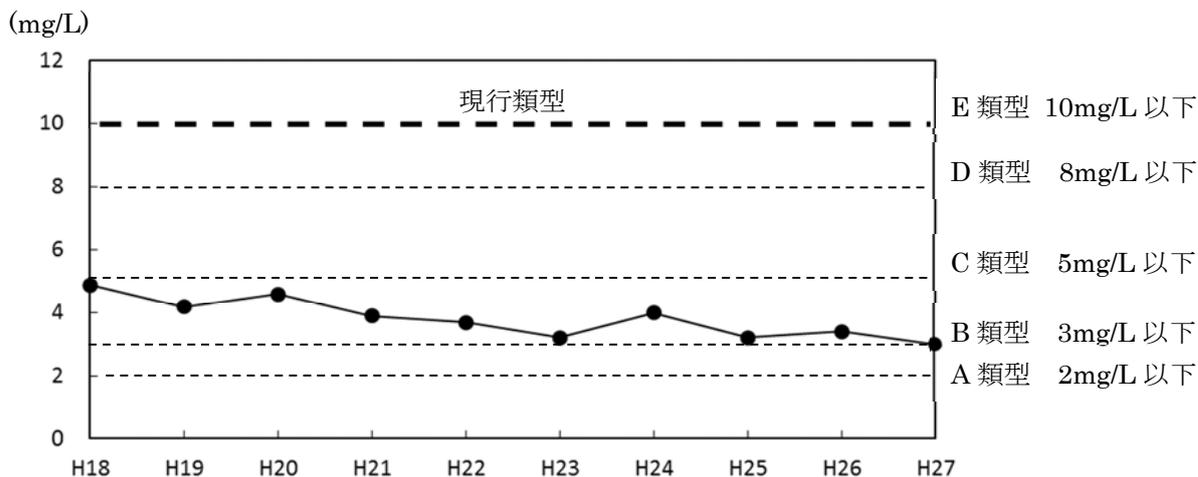


図5 環境基準点（萱津橋）における BOD(75%値)の状況

表3 環境基準点（萱津橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	4.9	4.2	4.6	3.9	3.7	3.2	4.0	3.2	3.4	3.0
BOD	3.9	3.5	3.6	3.3	2.7	3.3	3.2	2.9	3.1	2.7
pH	6.9	6.9	6.9	7.3	7.1	7.0	7.1	7.1	6.9	7.1
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
SS	7	8	8	9	8	11	9	8	10	7
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DO	4.7	4.5	4.8	5.1	5.2	5.2	5.4	4.6	5.3	5.9
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測（5年後、10年後）

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去 5 ヶ年平均		平成 31 年度	平成 36 年度
萱津橋	H22~H26	3.5mg/L	3.0mg/L	2.5mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるD類型の基準値を満足している。また、総量規制による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してD類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のE類型からD類型へ引き上げ、達成期間を「直ちに達成」とする。

現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
E	ハ	D	イ

2. 3 五条川下流水域

(1) 概況

五条川は、その源を犬山市西片草に発し、新川と合流して伊勢湾（名古屋港）に注ぐ河川延長約 28km、流域面積約 115km²の一級河川である。

昭和 46 年に E 類型に指定された。平成 8 年に達成期間が「ハ」から「イ」に見直された。

現行類型等	環境基準点
E・イ	まちあい 待合橋

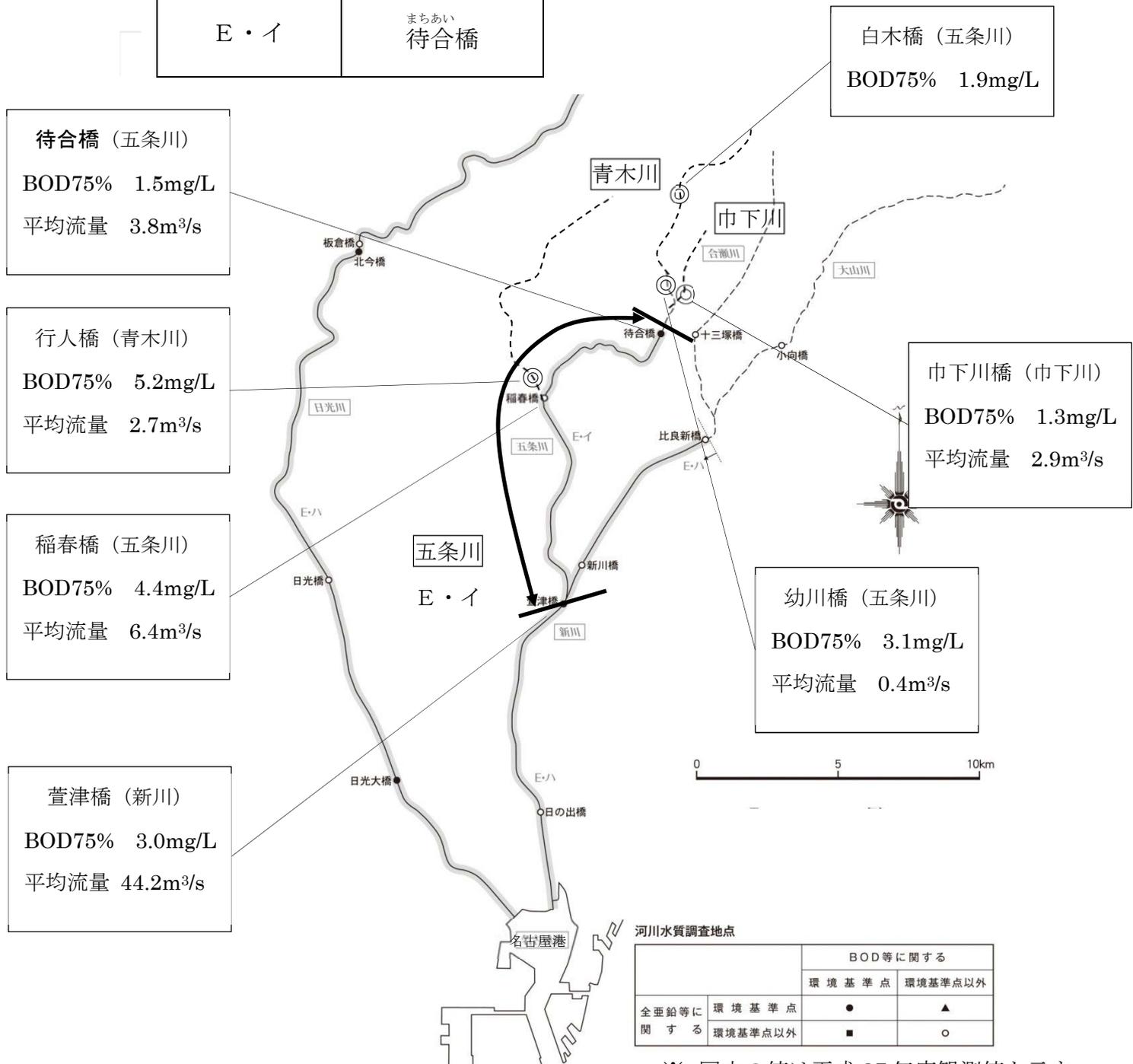


図 6 五条川流況図

※ 図中の値は平成 27 年度観測値を示す。

◎は平成 27 年度追加調査地点を示す。

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（待合橋）において過去 10 年間全て現行のE類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるD類型の基準値を 10 年連続して満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質量(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去 10 年間全て現行のE類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるD類型の基準値を過去 10 年間全て満足している。

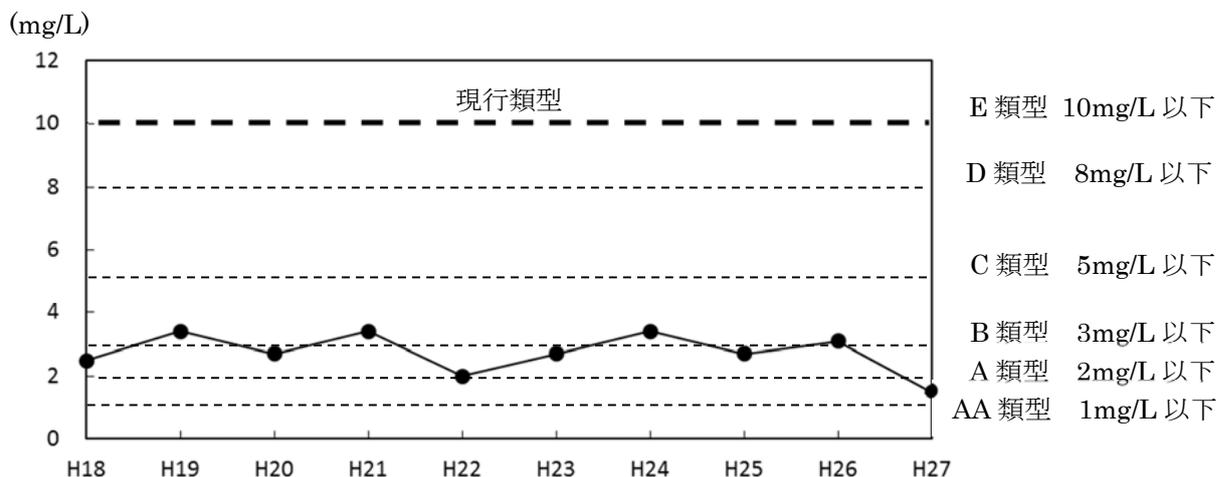


図7 環境基準点（待合橋）における BOD(75%値) の状況

表4 環境基準点（待合橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	2.5	3.4	2.7	3.4	2.0	2.7	3.4	2.7	3.1	1.5
BOD	2.8	2.5	2.8	2.5	1.9	2.0	2.2	2.5	2.4	1.2
pH	6.9	7.0	6.9	7.4	7.1	7.0	6.9	7.2	6.8	6.9
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
SS	5	5	6	5	4	5	5	4	5	4
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DO	8.6	9.4	9.1	8.2	8.6	8.2	8.2	8.2	8.5	8.9
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測（5年後、10年後）

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去5ヶ年平均		平成31年度	平成36年度
待合橋	H22~H26	2.8mg/L	2.5mg/L	2.1mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるD類型の基準値を満足している。また、総量規制による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してD類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のE類型からD類型へ引き上げ、達成期間を「直ちに達成」とする。

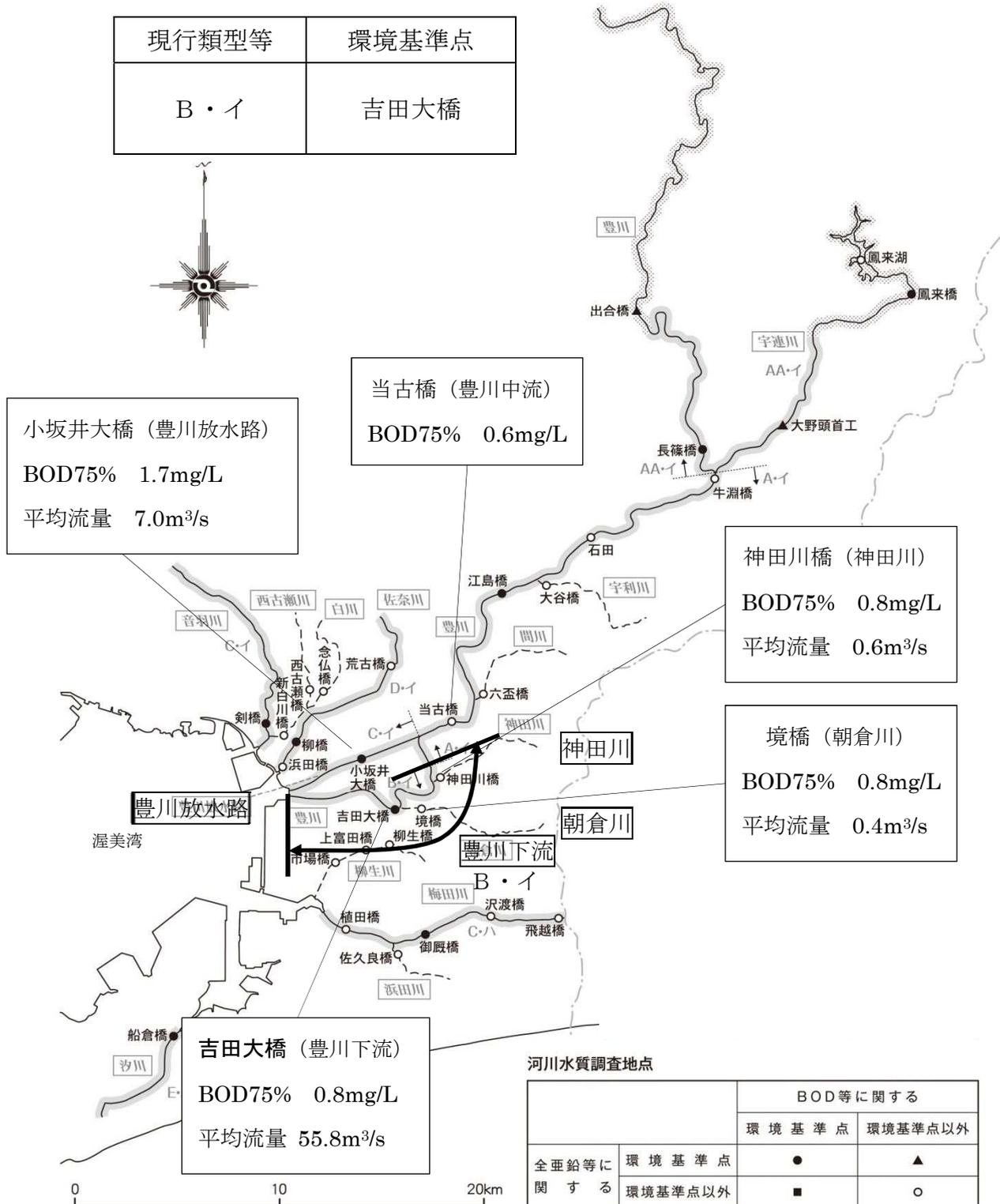
現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
E	イ	D	イ

2. 4 豊川下流水域

(1) 概況

豊川は、その源を北設楽郡設楽町の段戸山（標高 1,152m）に発し、渥美湾に注ぐ河川延長約 77km、流域面積約 724km²の一級河川である。

昭和 46 年に豊橋市下条上水道取水地点より下流がB類型に指定された。平成 11 年に達成期間が「ロ」から「イ」に直された。



※ 図中の値は平成 27 年度観測値を示す。

図 8 豊川下流流況図

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（吉田大橋）において過去 10 年間全て現行のB類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるA類型の基準値を 10 年連続して満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去 10 年間全て現行のB類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるA類型の基準値を過去 10 年間全て満足している。大腸菌群数の年間平均値は、現行のB類型の基準値を過去 10 年間で6年満足しているが、上位の類型であるA類型の基準値は過去 10 年間一度も満足していない。

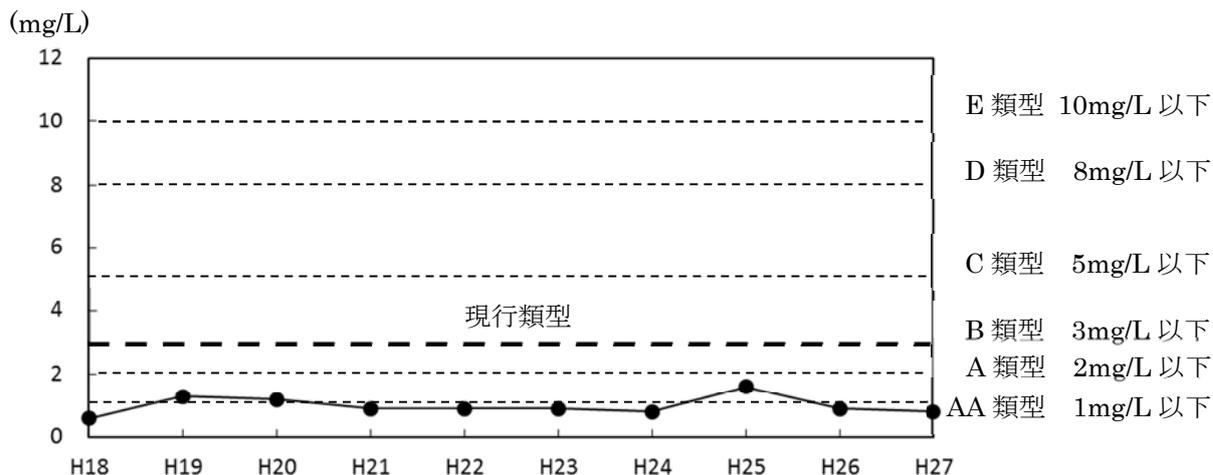


図 9 環境基準点（吉田大橋）における BOD(75%値)の状況

表 5 環境基準点（吉田大橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	0.6	1.3	1.2	0.9	0.9	0.9	0.8	1.6	0.9	0.8
BOD	0.6	1.1	1.1	0.8	0.7	0.7	0.7	1.2	0.7	0.7
pH	7.3	7.3	7.3	7.4	7.3	7.2	7.2	7.3	7.3	7.3
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
SS	4	2	4	3	2	3	3	5	2	3
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
DO	9.0	8.8	9.1	9.4	9.5	9.7	9.2	9.5	9.6	9.8
	100	100	100	100	100	100	100	100	97	100
大腸菌群数	13000	3700	3800	1900	4700	5100	46000	7800	3300	3300
	50	58	79	83	67	75	33	75	83	83

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「大腸菌群数」の上段は大腸菌群数の年間平均値(MPN/100ml)を下段は現行類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測（5年後、10年後）

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去5ヶ年平均		平成31年度	平成36年度
吉田大橋	H22～H26	1.0mg/L	1.0mg/L	1.0mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるA類型の基準値を満足している。また、総量規制による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してA類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のB類型からA類型へ引き上げ、達成期間を「直ちに達成」とする。

現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
B	イ	A	イ

2. 5 豊川放水路水域

(1) 概況

豊川放水路は、豊川流域の洪水被害を解決するために新たに計画・施工された、渥美湾に注ぐ河川延長約 7km の一級河川である。

昭和 46 年に C 類型に指定された。平成 11 年に達成期間が「ハ」から「イ」に見直された。

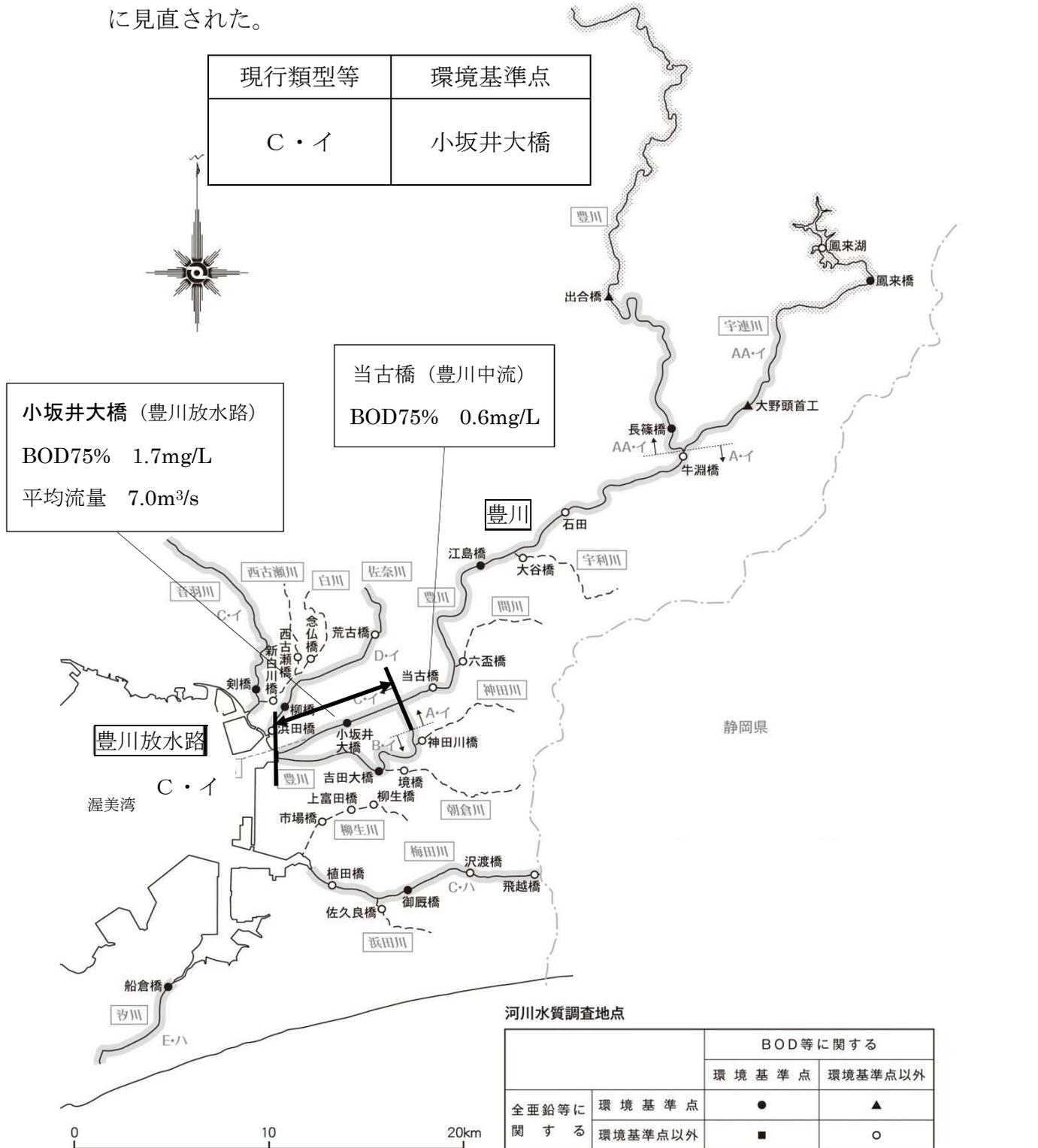


図 10 豊川放水路流況図

※ 図中の値は平成 27 年度観測値を示す。

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（小坂井大橋）において過去 10 年間で9年連続して現行のC類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるB類型の基準値を9年連続して満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質量(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去 10 年間全て現行のC類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるB類型の基準値を過去 10 年間全て満足している。平成 27 年度に測定を実施した、大腸菌群数はB類型の基準値を満足しなかった。

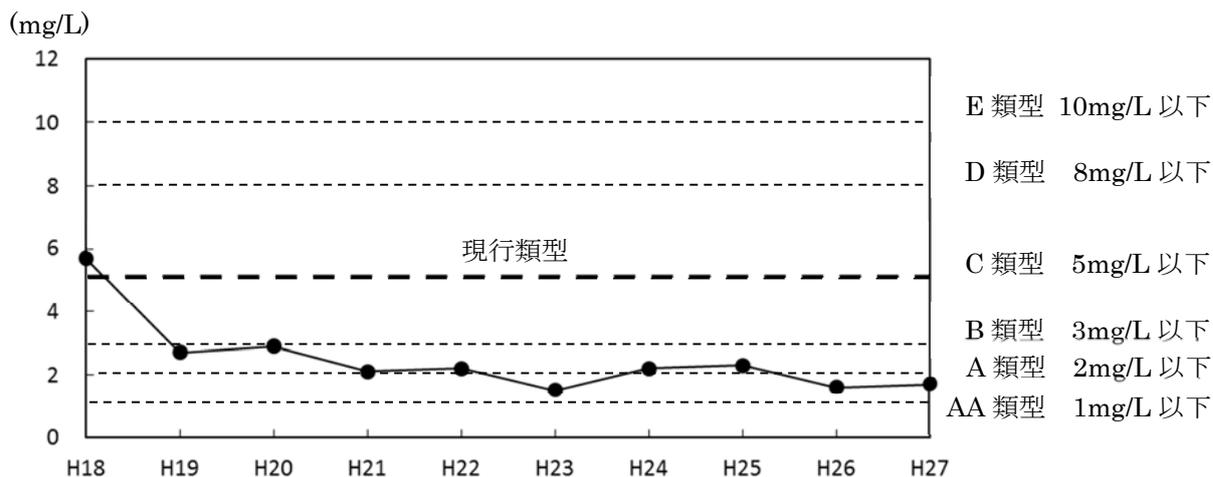


図 1 1 環境基準点（小坂井大橋）における BOD(75%値) の状況

表 6 環境基準点（小坂井大橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	5.7	2.7	2.9	2.1	2.2	1.5	2.2	2.3	1.6	1.7
BOD	3.7	5.4	3.2	1.6	2.2	1.4	2.8	2.3	1.3	1.4
pH	7.6	7.4	7.6	7.5	7.5	7.3	7.4	7.6	7.5	7.6
	100	100	92	100	100	100	100	100	100	100
SS	12	11	5	6	8	7	5	12	5	5
	100	92	100	100	100	100	100	100	100	100
DO	9.5	8.8	8.8	8.7	9.4	9.4	8.4	9.8	9.9	9.4
	100	100	92	100	92	100	100	100	100	100
大腸菌群数										29000
										33

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「大腸菌群数」の上段は大腸菌群数の年間平均値(MPN/100ml)を下段はB類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測（5年後、10年後）

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去5ヶ年平均		平成31年度	平成36年度
小坂井大橋	H22～H26	2.0mg/L	1.8mg/L	1.7mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるB類型の基準値を満足している。また、総量規制による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してB類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のC類型からB類型へ引き上げ、達成期間を「直ちに達成」とする。

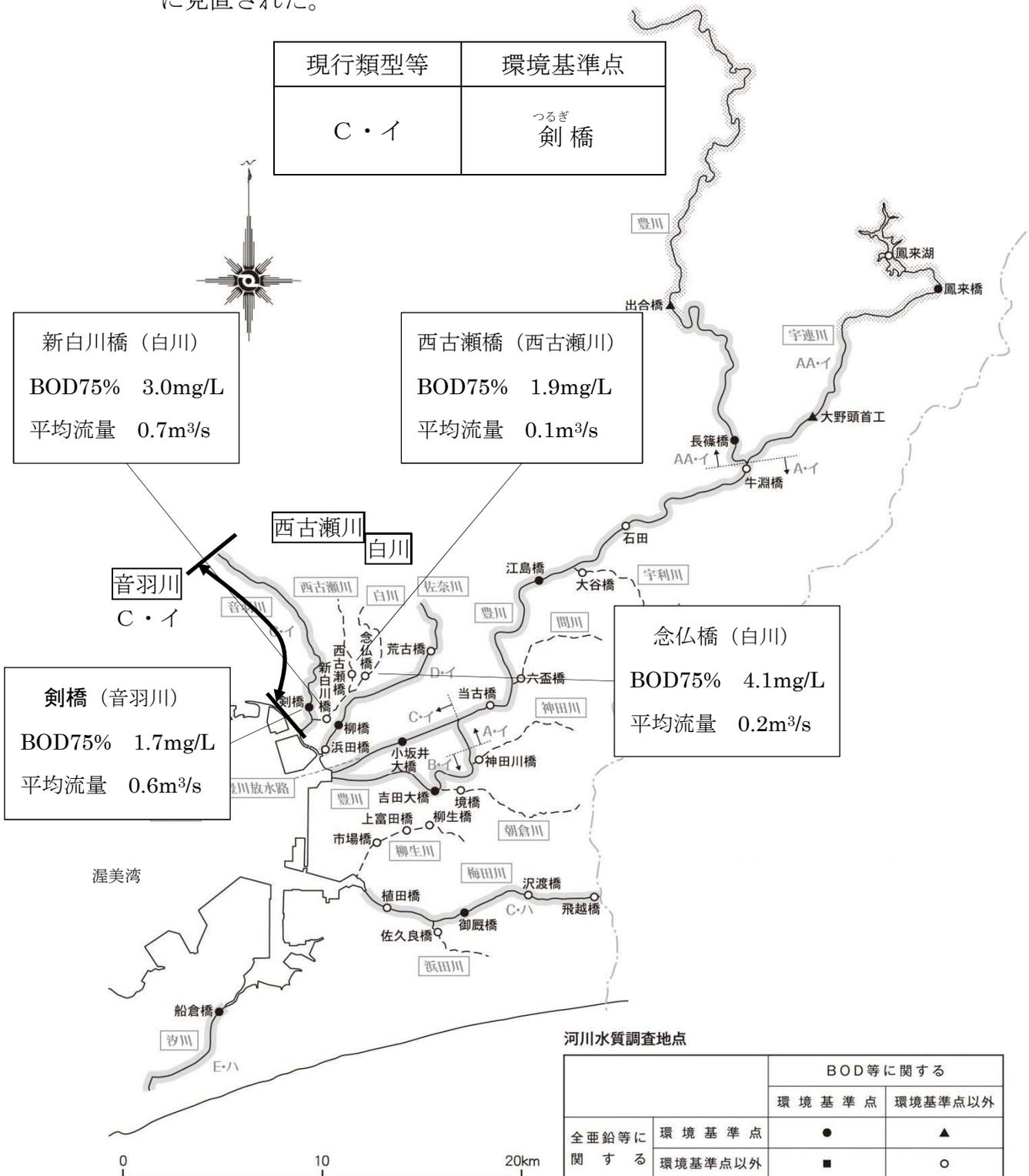
現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
C	イ	B	イ

2. 6 音羽川水域

(1) 概況

音羽川は、その源を豊川市と蒲郡市と境付近の五井山（標高 454m）に発し、渥美湾に注ぐ河川延長約 12km、流域面積約 64km²の二級河川である。

昭和 62 年に C 類型に指定された。平成 11 年に達成期間が「ロ」から「イ」に見直された。



※ 図中の値は平成 27 年度観測値を示す。

図 1 2 音羽川流況図

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（剣橋）において過去 10 年間全て現行のC類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるB類型の基準値を 10 年連続して満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質量(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去 10 年間全て現行のC類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるB類型の基準値を過去 10 年間全て満足している。平成 27 年度に測定を実施した、大腸菌群数はB類型の基準値を満足しなかった。

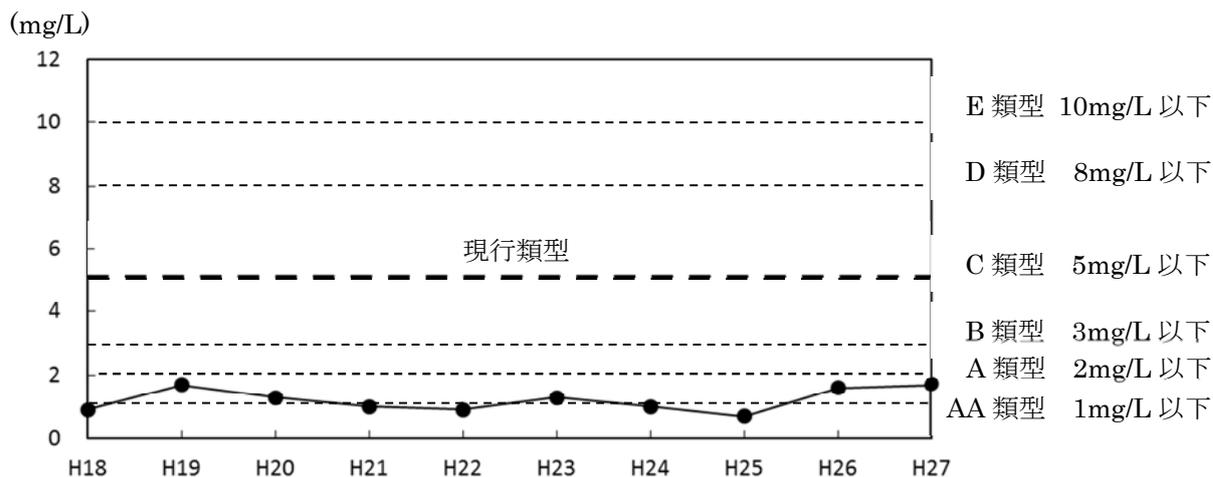


図 1 3 環境基準点（剣橋）における BOD(75%値) の状況

表 7 環境基準点（剣橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	0.9	1.7	1.3	1.0	0.9	1.3	1.0	0.7	1.6	1.7
BOD	1.0	1.7	1.1	0.9	0.8	1.0	1.4	1.0	1.3	1.2
pH	6.9	7.0	6.6	7.2	7.0	7.1	7.0	7.1	7.4	7.2
	100	67	75	100	92	100	100	100	100	100
SS	5	6	6	5	2	3	7	3	3	6
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
DO	10	11	10	8.9	10	10	11	9.6	10	11
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
大腸菌群数										31000
										67

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「大腸菌群数」の上段は大腸菌群数の年間平均値(MPN/100ml)を下段はB類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測 (5年後、10年後)

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去5ヶ年平均		平成31年度	平成36年度
剣橋	H22~H26	1.1mg/L	0.9mg/L	0.8mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるB類型の基準値を満足している。また、総量規制による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してB類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のC類型からB類型へ引き上げ、達成期間を「直ちに達成」とする。

現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
C	イ	B	イ

2. 7 佐奈川水域

(1) 概況

佐奈川は、その源を豊川市千両町に発し、渥美湾に注ぐ河川延長約 14km、流域面積約 35km²の二級河川である。

昭和 62 年に E 類型に指定され、平成 11 年に D 類型に見直された。

現行類型等	環境基準点
D・イ	柳橋

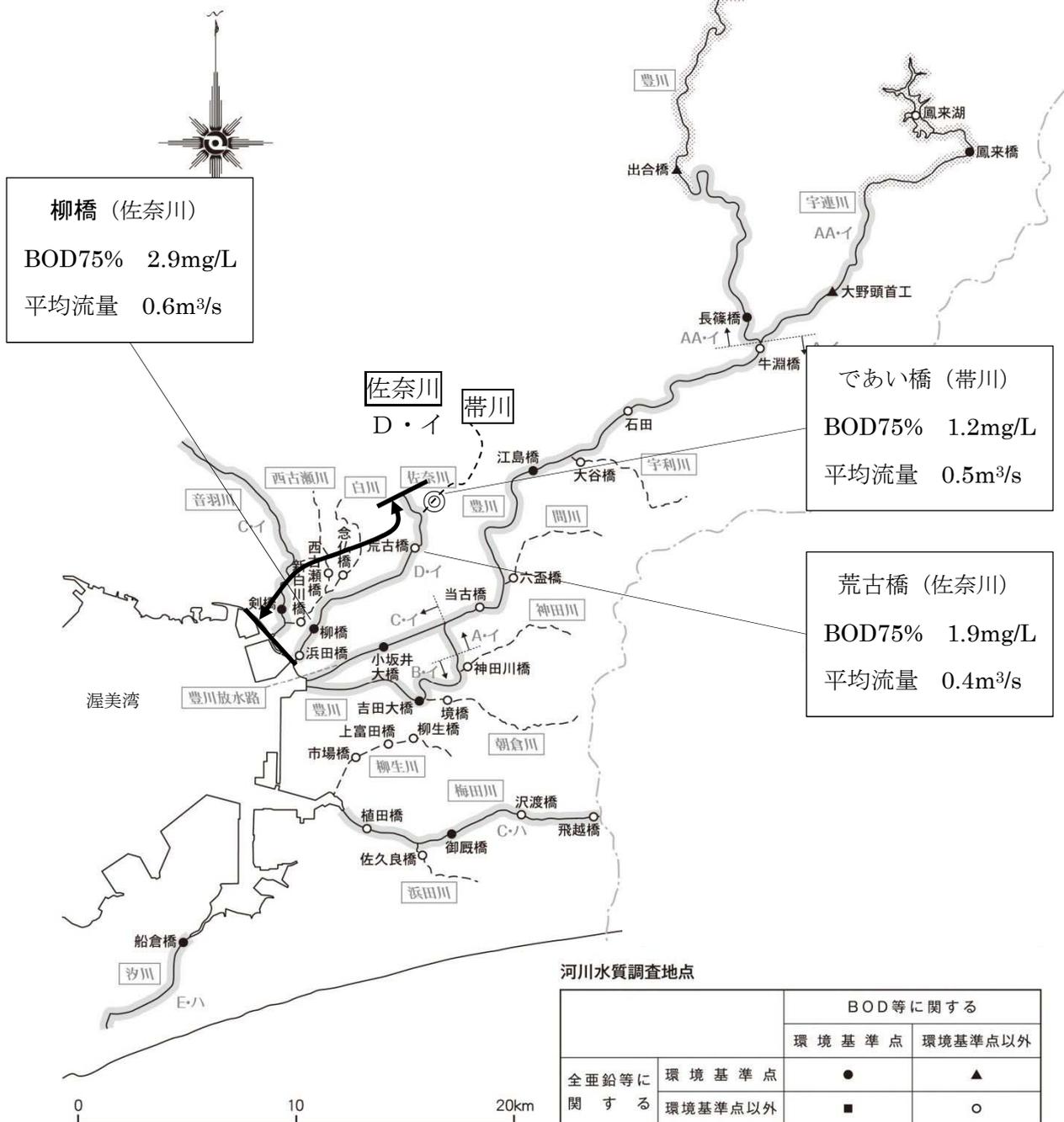


図 1 4 佐奈川流況図

※ 図中の値は平成 27 年度観測値を示す。

◎は平成 27 年度追加調査地点を示す。

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（柳橋）において過去 10 年間全て現行のD類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるC類型の基準値を 10 年連続して満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質質量(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去 10 年間全て現行のD類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるC類型の基準値を過去 10 年間全て満足している。

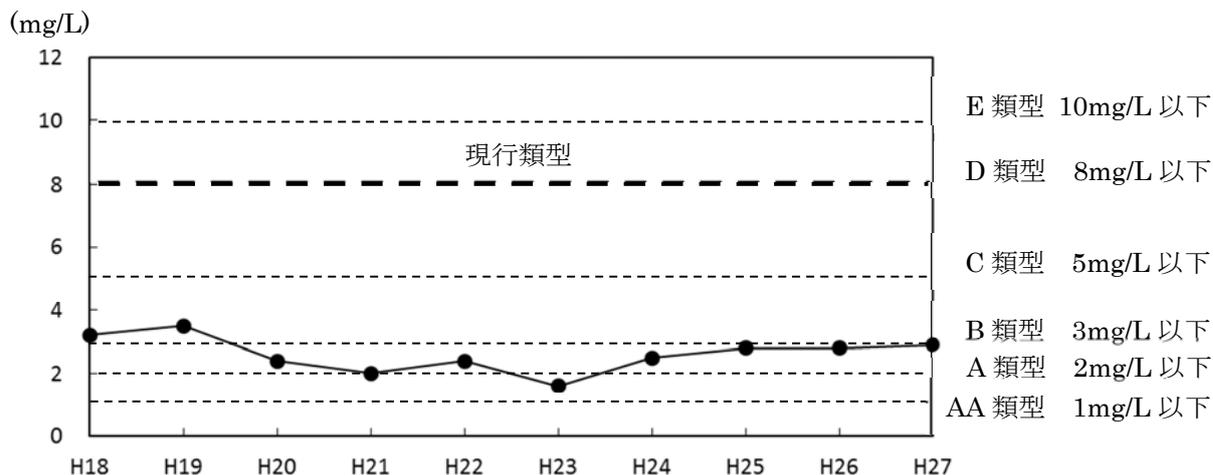


図 15 環境基準点（柳橋）における BOD(75%値) の状況

表 8 環境基準点（柳橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	3.2	3.5	2.4	2.0	2.4	1.6	2.5	2.8	2.8	2.9
BOD	2.7	4.2	3.0	2.0	2.1	1.7	1.9	1.9	2.1	2.5
pH	7.3	7.5	7.0	7.2	7.2	7.5	7.6	7.5	7.2	7.5
	100	92	100	92	100	92	92	92	100	92
SS	3	3	6	5	8	3	4	2	2	2
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
DO	9.7	10	9.6	10	9.9	9.8	10	10	9.7	9.6
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質質量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測（5年後、10年後）

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去 5 ヶ年平均		平成 31 年度	平成 36 年度
柳橋	H22~H26	2.4mg/L	2.1mg/L	1.7mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるC類型の基準値を満足している。また、総量規制による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してC類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のD類型からC類型へ引き上げ、達成期間を「直ちに達成」とする。

現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
D	イ	C	イ

2. 8 汐川水域

(1) 概況

汐川は、その源を田原市高松町に発し、渥美湾に注ぐ河川延長約 9km、流域面積約 37km²の二級河川である。

昭和 62 年に E 類型に指定した。

現行類型等	環境基準点
E・ハ	船倉橋

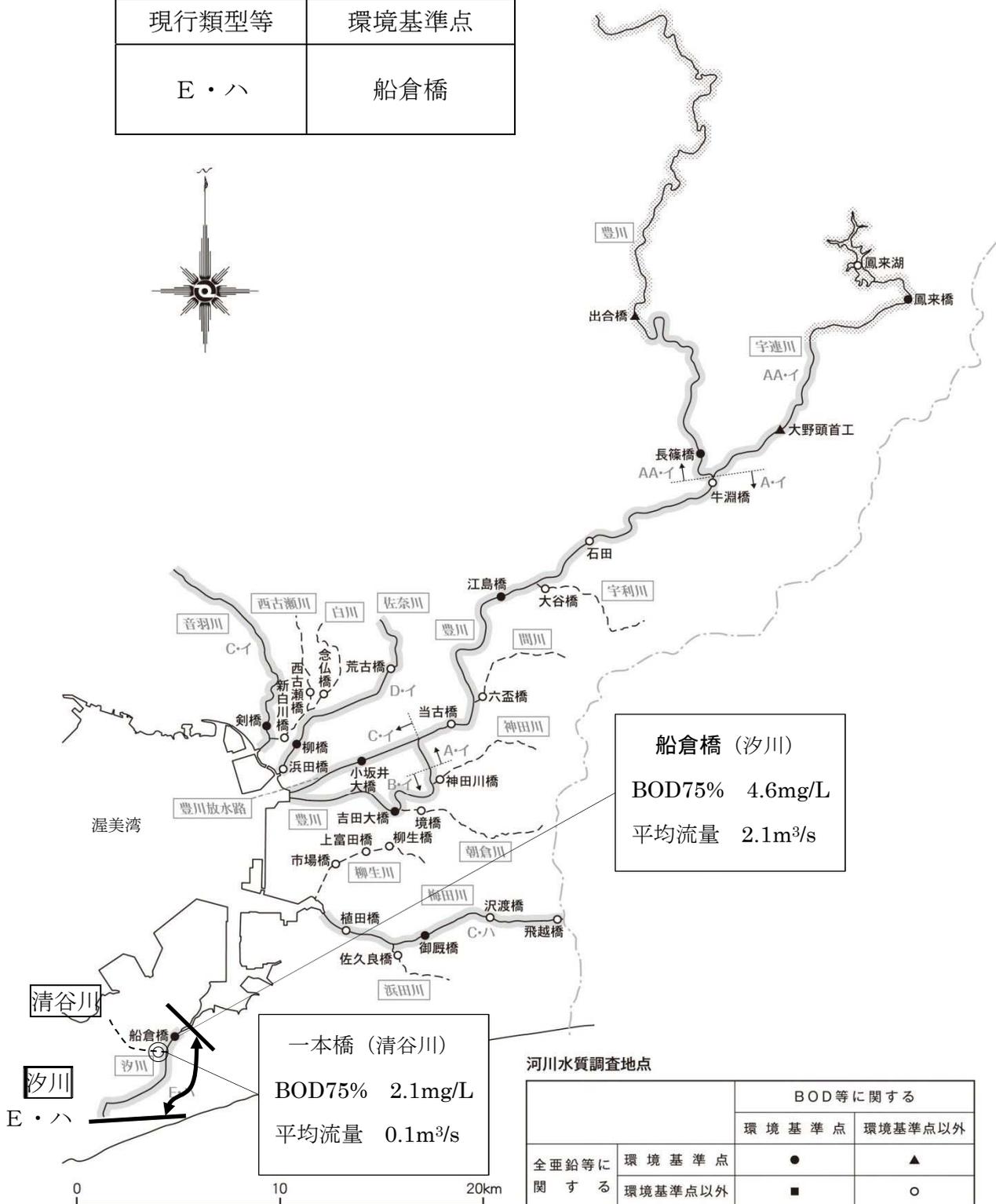


図 16 汐川流況図

※ 図中の値は平成 27 年度観測値を示す。

◎は平成 27 年度追加調査地点を示す。

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（船倉橋）において過去 10 年間全て現行のE類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるD類型の基準値を 10 年連続して満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去 10 年間全て現行のE類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるD類型の基準値を過去 10 年間全て満足している。

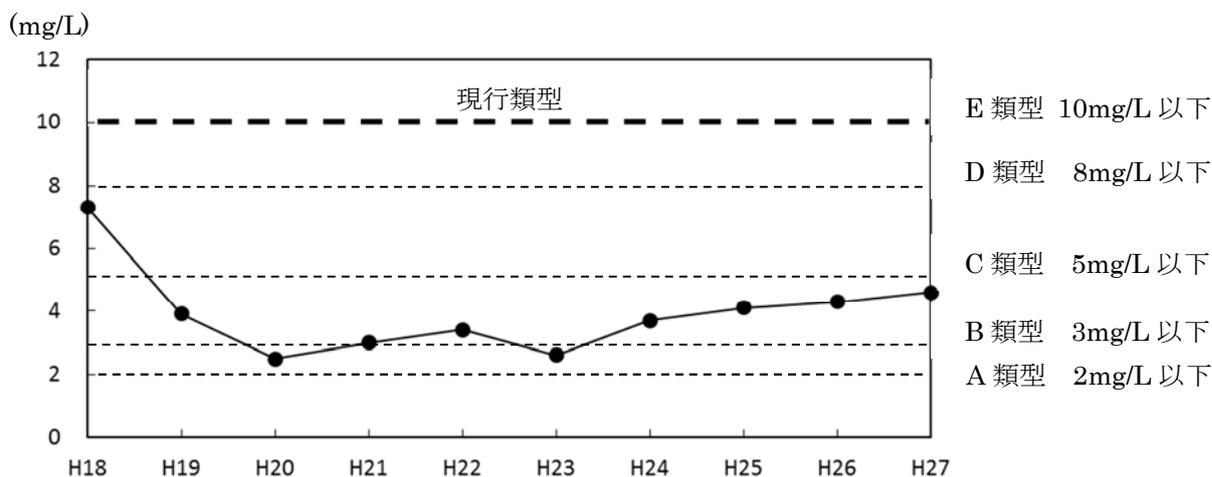


図 1 7 環境基準点（船倉橋）における BOD (75%値) の状況

表 9 環境基準点（船倉橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	7.3	3.9	2.5	3.0	3.4	2.6	3.7	4.1	4.3	4.6
BOD	6.0	5.3	2.0	2.8	3.0	2.4	3.1	3.3	3.5	3.8
pH	7.1	7.0	7.1	7.2	7.4	7.1	7.1	7.2	7.1	7.2
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
SS	34	41	37	38	47	32	59	70	38	55
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DO	6.6	7.1	7.7	7.8	7.7	7.0	7.0	7.7	7.8	8.2
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測（5年後、10年後）

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去 5 ヶ年平均		平成 31 年度	平成 36 年度
船倉橋	H22~H26	3.6mg/L	3.1mg/L	2.9mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるD類型の基準値を満足している。また、総量規制による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してC類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のE類型からD類型へ引き上げ、達成期間を「直ちに達成」とする。

現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
E	ハ	D	イ

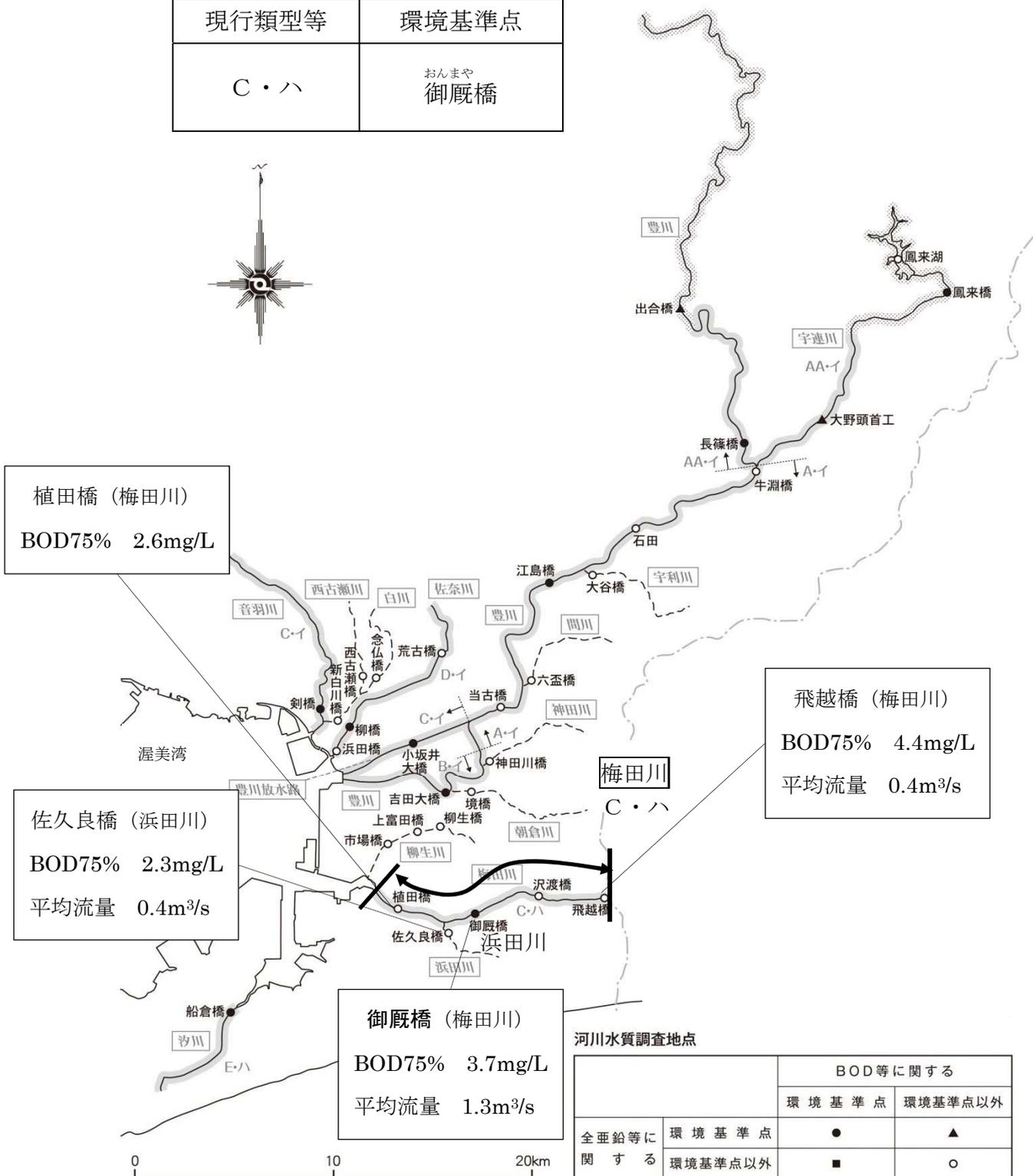
2. 9 梅田川水域

(1) 概況

梅田川は、その源を豊橋市雲谷町（静岡県境）に発し、渥美湾に注ぐ河川延長約 14km、流域面積約 87km² の二級河川である。

昭和 50 年に C 類型に指定された。

現行類型等	環境基準点
C・ハ	おんまや 御厩橋



※ 図中の値は平成 27 年度観測値を示す。

図 18 梅田川流況図

(2) 過去 10 年間の水質の状況

水域類型の見直しの指標であるBOD(75%値)は、環境基準点（御厩橋）において過去 10 年間全て現行のC類型の基準値を達成している。更には、上位の類型であるB類型の基準値を過去 10 年間で2年満足している。

また、水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(SS)、溶存酸素量(DO)の年間平均値は過去 10 年間全て現行のC類型の基準値を満足している。更には、上位の類型であるB類型の基準値を過去 10 年間全て満足している。

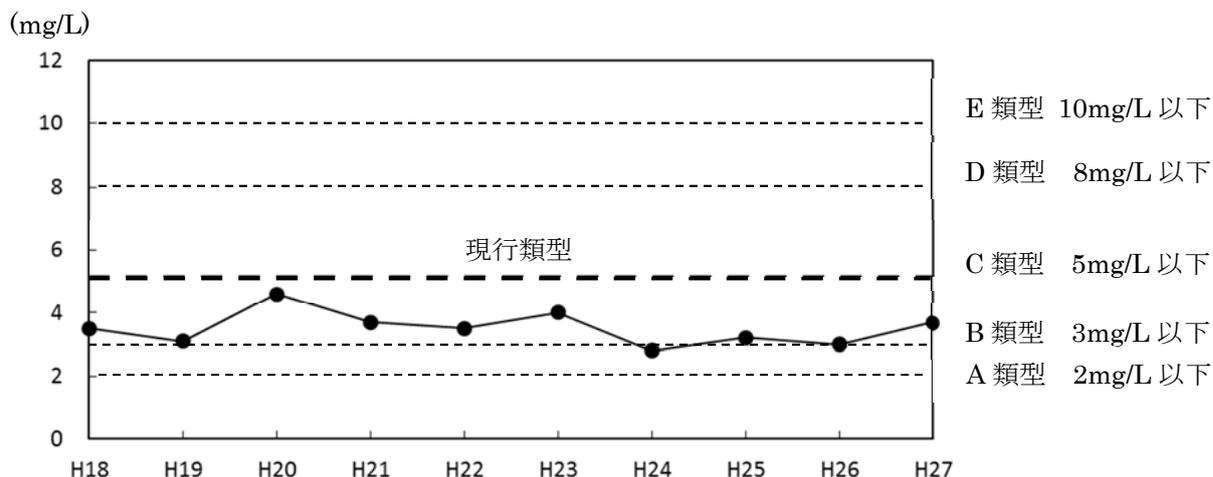


図 19 環境基準点（御厩橋）における BOD(75%値) の状況

表 10 環境基準点（御厩橋）における水質の状況

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
BOD75%	3.5	3.1	4.6	3.7	3.5	4.0	2.8	3.2	3.0	3.7
BOD	3.2	2.7	3.5	3.3	2.9	3.3	2.6	2.9	2.5	3.3
pH	7.8	7.6	7.5	7.4	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.5
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
SS	4	6	4	5	5	5	4	4	5	5
	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
DO	9.6	9.7	9.7	9.7	10	9.2	9.3	9.2	9.4	9.9
	100	100	100	100	100	68	100	92	100	100

※「BOD 75%」はBODの75%水質値(mg/l)を、「BOD」はBODの年間平均値(mg/l)を、「pH」の上段は水素イオン濃度の年間平均値を下段は現行類型適合率を、「SS」の上段は浮遊物質の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を、「DO」の上段は溶存酸素量の年間平均値(mg/l)を下段は現行類型適合率を示す。

(3) 将来水質予測（5年後、10年後）

地点名	現況水質 (BOD75%)		将来予測水質 (BOD75%)	
	過去 5 ヶ年平均		平成 31 年度	平成 36 年度
御厩橋	H22~H26	3.3mg/L	3.3mg/L	3.3mg/L

(4) 見直し案

BOD(75%値)が5年以上連続して上位の類型であるB類型の基準値を満足していないが、10年連続して現行のC類型の基準値を達成している。また、総量規制による汚濁負荷量の段階的な削減や下水道整備等の施策により、将来も継続してC類型の基準値を満足する予測結果が得られたことから、水域類型を現行のC類型とし、達成期間を「5年を超える期間で可及的速やかに達成」から「直ちに達成」とする。

現 在		見直し案	
類 型	達成期間	類 型	達成期間
C	ハ	C	イ